

木材の「地産地消」を 加古川に専門店開業

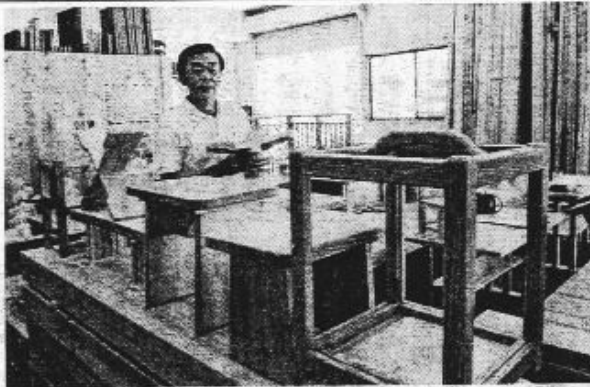
もく和センター「県産」を小売り

木工教室など併設

木材の「地産地消」を市内で建設業を営む安村義光さん(55)が、長年の趣味でもある木工品作りの技を生かそうと個人で開店した。県産の角材や板材、独自の木工家具が並ぶほか、電気工事などを用意した木工教室や、子どもが木の玩具で遊べる部屋も用意。店全体で「木のあふくらし」の魅力を提案する。

「もく和」は、加古川

市内で建設業を営む安村義光さん(55)が、長年の趣味でもある木工品作りの技を生かそうと個人で開店した。県産の角材や板材、独自の木工家具が並ぶほか、電気工事などを用意した木工教室や、子どもが木の玩具で遊べる部屋も用意。店全体で「木のあふくらし」の魅力を提案する。



多種多様な木材と安村さん。店内には心地よい木の香りが漂う＝加古川市野口町野口、もく和

安村さんは二〇〇五年、地域発展や職人文化の継承、県産木材を使った循環型社会を目標に同業者らと「もりの木ネットワーク」を設立。「輸送に多くのエネルギーを費やす外国産よりも、県産は環境に優しい。原油高もあり、最近では価格も外国産より安くなった」と県産木材の利点を強調する。

木材の多くは丹波市内の製材所で仕入れるが、一つ一つを目で確認して選り、価格も抑えた品物ばかり。安村さんは「何でも気軽に相談してもらえ、日曜大工を趣味にしようとする人も、一度店に来てもらえればイメージがわきますよ」と話し、夏休みに向けては子どもたちへの木工指導や、団塊世代への技術伝授なども構想中だ。

もく和センター ☎079・426・3294

(長瀬麻子)

播

磨

読者センター ☎078・362・7056

ワイド

